

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点①〉

市民、団体、市などが連携しあい、三郷市の資源（人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化など）に学び、三郷を取り巻く社会環境の変化を見据えつつ、歩むべき方向性を常に考え行動する「三郷学」。今回からシリーズで三郷学についてご紹介します。まずは、「三郷学の視点」からのスタートです。ここでは、三郷学の位置づけや三郷学を進めるうえでの考え方を紹介します。

三郷学の位置づけと内容

1. 三郷学は、4月1日からスタートした第4次三郷市総合計画において、経営方針、リーディング・プロジェクトとして位置づけられています。
2. 三郷学では、三郷の資源について、歩いて調べたり、お話を聞いたり、資料を集めたりして、これからの三郷市のまちづくりに役立つ考え方を学習し、研究します。
3. また、その手法をまとめます。さらに、そのようなことのできる人『財』（三郷市地域公共人材）が生まれることを支援します。
4. 三郷学は、市民が三郷の資源を学ぶことで、三郷に誇りと愛着を持ち、将来に希望をもたらす学です。
5. 三郷学により、「多分野」「多世代」の市民・市民活動をつなげる交流の場を提供し、さまざまな資源の持つ力を引き出し、地域力の向上を図ります。

三郷学の視点

1. 現状を知る

①比較する(図表化する)

三郷市と他の自治体を比較することで、三郷市の特徴を浮かび上がらせることができます。

(例)山手線ターミナル駅からの時間

平成17年8月24日、つくばエクスプレス三郷中央駅が開業しました。それまでJR武蔵野線で三郷駅から東京駅まで1時間ほどかかっていたものが、秋葉原まで20分、乗り換えて東京駅へも約30分(三郷中央駅～東京駅)となり山手線のターミナル駅までのアクセス時間が短縮されています。山手線のターミナル駅まで20分のところには、吉祥寺、浦和、市川などの駅があります。これらの駅があるまちの課題を調べ、三郷市の状況と比較することが、三郷市の歩むべき方向性を探る一つのきっかけになることがあります。

